

平成26年度 鳥取市小学校教育研究会情報教育部会授業研究会

- 1 日 時 平成26年11月5日(水) 13:45～
- 2 授業者 鳥取市立久松小学校 山田 省吾 教諭
- 3 教 科 社会科
- 4 学 年 第5学年
- 5 学習指導案 (別紙1)
- 6 授業研究会 (参加者 11名)



[授業者自評]

- ・北中校区の社会科の授業研究会で社会科の授業をした。情報教育の授業研究もかねるので、タブレットを使い資料提示を行う実践を考えた。
- ・社会科の学習で資料が読み取れない児童のために ICT の活用をはかり、資料読み取りの手助けとするようにした。
- ・iPad に資料を入れて子どもが自ら資料を選び、理由をつけて説明すること、自分の課題を解決するためにどんな資料があるのかを考えさせるようにした。
- ・話し合いを活発にすることができなかった。
- ・社会科の学習において iPad の使い方にはどんな方法があるのか教えてほしい。

(意見交換)

- ・現在子ども達は iPad の使い方に慣れてない。子ども達が使えようにするのは来年度の予定。子ども達が操作できるようにしたいと考えている。
- ・㊦と㊧の違いは、問は「子ども達が解決していくもの」、課は「その学習で付きたい力」と分けている。
- ・「国内生産と現地生産のどちらを重視すべきだろう。」に焦点を当てたのは？それは、世界との協力することを考えさせるため、国と国のつながりを考えさせたかった。
- ・国内生産と現地生産の二つの意見に分けてやると、自分の立場がよくわかる。そうすることで、自分の意見が述べやすくなるのではないかな。
- ・自分の考えは変わってよい。相手の意見を聞いて考えを変えてもよい。そのために自分の立場を明確にしないでおくことも考えられる。
- ・討論を活発にするための方法は。学習課題が難しいと話し合いが難しくなる。意見別を行ったり近くの友達が集まってグループ討議を行ったり隣同士で話し合ったりしてみるなど考えられる。
- ・国と国が協力していくことが大切ということを知る資料が提示されて分かりやすかった。



○社会科の iPad (ICT) の使い方

- ・分かりやすく資料提示をすることができる。視点を与えるように、拡大したり色をつけたりするなどすることで多くの児童が分かりやすくなる。
- ・児童が素材を集めて発表する。集めた資料、動画や写真などを提示することで意欲的に取り組む。スマホで送ってもらう方法もあるが保護者の同意が必要となり、難しい面がある。児童は自分で操作して使いたいという気持ちは持っている。
- ・ボイスレコーダーを使ってインタビューをするなど機器の特性を生かした取り組みが考えられる。
- ・apple TV を使うことで、資料提示が簡単にできる。
(指導助言) 鳥取県教育センター 研修企画課 千代西尾祐司 指導主事
- ・資料提示の際、「よく見てね。」では分からない。見る視点を与えることが大切。視点を与えることで根拠を持って考えをまとめることができる。一つの絵でも、いろいろと見る視点を与え、部分を示していくことで、解釈することができる。
- ・社会的に構成される知識は、他人に説明しながら考えをはっきりさせ、他人の考えを聞いて理解して参考にして、いろいろな考えを統合して納得すること。
- ・相互作用とは、二人で考えたり問題を解いたりすると、自分の考えを見直すチャンスが増え、相手の解を「少し広い視野」から見直せる。
- ・ICT では、個人の学習の記録 (学びの履歴) が残らない。個人の学びの履歴のデータをどう残していくのが今後の課題である。



7 反省

今年度も授業研究会を実施でき活動を積み上げることができた。今年度は社会科の学習における、iPad と電子黒板を使い効果的な資料提示の仕方について研修を深めた。授業をしてくださった山田教諭と5年海組の子どもたち及び会場校として協力してくださった鳥取市立久松小学校の先生方には感謝したい。

さて、タブレット端末の導入を視野に入れた学習活動や授業の提案が多く見られ、教員の活用、グループでの活用、児童生徒1人1台の活用など、多様な導入パターンの実践事例がある。それぞれの活用のポイントを考え、タブレット端末を活用する学習を推進に向けて必要な研修のあり方や、備えておくべき運用管理の課題などについて考えなければならない。

今回の成果と課題を受けて、来年度以降も研究実践を積み重ねていきたい。